

## 会議要旨

会 議 名	甲州市行政改革推進委員会(第4回)
議 題	答申書の検討と提出
開会日時	平成20年11月28日(金)午後1時30分～2時30分
開会場所	甲州市役所本庁舎 第1会議室
出席者名	◎中村委員、○塩野委員、雨宮委員、井上委員、寺沢委員、日原委員、平野委員、蒔田委員、三森委員、矢崎委員 事務局 手塚課長、藤枝課長補佐、中村副主幹、小林主査
議 事	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会長 答申案について事務局に説明を求める。</li> <li>○ 事務局 (答申案について説明する。)</li> <li>○ 会長 委員から意見をいただきたい。</li> <li>○ 委員 どのように意見を出し検討していくのか、その方法をお聞きしたい。</li> <li>○ 会長 委員の意見は、事前に事務局に提出されているということを前提に意見をいただきたいので、個別ではなく、全体を通して意見をいただきたい。</li> <li>○ 委員 人口の高齢化と減少についてであるが、子供の数が減っている実情がこの文章ではわかりにくいので、少子高齢化という言葉を入れてほしい。若い人口層の定着が望ましいと思うので、そうした表現を加えてほしい。</li> <li>○ 会長 他に意見はあるか。</li> <li>○ 委員 全体の趣旨としては、少子高齢化対策とは若干違うと思う。人口が減少していることも事実であるから少子高齢化策も必要だと思う。少子高齢化だけを前面に打ち出すと続いて書いてある文章の内容と異なるのではないか。</li> <li>○ 委員 甲州市の人口減少の原因はなにか。</li> <li>○ 事務局 少子高齢化が一番に挙げられる。次に雇用の問題等が考えられるのではないか。「少子高齢化と人口の減少が進んでいる現状を踏まえ」としたいが。</li> <li>○ 委員 両親が塩山や勝沼に住んでいても、その子供が新婚家庭を他の自治体に持つと人口が減る。新しい家庭をどこに持つのかも重要ではないか。市内に新婚家庭を持ってもらうような住宅施策も人口減少の食い止めになると思う。</li> <li>○ 会長 「総合的な魅力を高める」というような表現の中に、その部分が含まれていると理解してほしい。</li> <li>○ 委員 高齢化が進んでも人口は増える。問題は少子化である。これに歯止めを掛けなければならないと思っている。</li> <li>○ 委員 たとえば、市役所の職員が結婚して隣の市で二人の生活を持てば、人口が2人減少することになる。少子高齢化と甲州市の人口の減少が進んでいることを明記すればいいと思う。</li> <li>○ 委員 市長への手紙は、市長自ら開封することで市民の声に直に接することが重要であり、それが手紙を出した人の気持ちに報いることになると話してきた。前回の説明では、職員が開封したものを担当者に知らせ、必要なものについては市長が見ているという説</li> </ul>	

明を受けた。すべての手紙を市長が見るべきだと話してきたが、市長がすべて見ているのであればわたしの提案も違った内容になったと思う。現時点でも市長自ら開封することの方がいいと思う。年間約70通の手紙であれば、手間のかかるものでもないので検討してほしい。また、市広報という表現ではなく市広報紙にしたほうがいいと思う。

- 事務局 市広報紙に訂正させていただく。市長の手紙は、広聴・広報担当がすべて開封し、内容の整理をしたうえで対応できるものは各課に回覧し、最終的に市長がすべてに目を通してしている。今年度から広聴・広報担当が政策秘書課の所管となり、市長のトップマネジメントが強化されているので、常に市長と連携が取れるようになっている。
- 会長 この表現でご理解いただけるか。
- 委員 それでいい。
- 会長 事前に答申案を見ていただいているということを前提に会議を進めている。市長との意見交換の時間もとりたいと思っているので、結論を急がせてほしい。他に意見はあるか。
- 委員（意見なし。原案了承）
- 会長 ここで休憩を取るなので、その間に事務局で答申書を修正してほしい。  
（休憩）  
（再開・答申書を中村会長から市長に手渡す。）
- 市長 中村会長から答申をいただいた。7月から本日まで4回にわたり、甲州市の行政改革に対し慎重な御審議をいただき心から感謝申し上げる。答申書の内容を真摯に受け止め、今後の行政運営にしっかり反映させていきたい。市民の視点を大切に甲州市の課題に取り組むため、無駄なく効果的、効率的に事業を進めていくことが大切だ。委員の意見を踏まえ職員一丸となって行政改革に取り組んで行くので、今後もご意見を賜りたい。
- 会長 ここで市長と委員との意見交換を行いたい。
- 委員 甲州市の取り組みの中で、各課の職員が課題をもちながら良い発想を練り、行政に反映させるようにしていると聞き、新しい取り組みだと感じている。広く一般の意見を吸い上げることも素晴らしいことだと思うが、各課においても市民との意見交換が行えるような場を設けてほしい。若い職員も意見を出しやすくなるのではないかと。民間の方も加わり、お互いに意見が言い合えるような小グループもあっていいと思う。委員会等でこれからの行政のあり方に対する話はするが、詰めた話にまで至らない。新しい発想を取り入れていくこともお願いしたい。行政改革という言葉は非常に硬く聞こえる。鎌倉市では「鎌倉ダイエット」と言っている。市長への手紙も「こうしろし・甲しろ市」などと呼ばば、やわらかくなり取り付きやすくなるのではないかと。思う。
- 委員 地域懇談会でも話をさせていただいているが、市の財政が厳しいなかで、市民は現実の問題として厳しさを認識している。「財政は厳しい時代ではあるが、市民の皆さん、将来の甲州市はこうなるのだから、期待をしてくれ」と、夢をもてる施策をわかりやすく描けるよう、もう一步進んでいただけるといいと思う。合併後 4 年目となり、旧市町村の枠が外れるときにきているという話も聞いている。本庁の応接室には旧塩山市の歴代市長の写真が飾ってある。勝沼庁舎にも歴代町長の写真が飾ってある。こうしたことから改善していくことが必要と思う。

- 市長 部署ごとに市民の意見を聞く場を設けることは必要だと思う。現状ではその場所を確保できない。新庁舎においては、担当課にそうした場を確保する予定である。直接、担当者が市民の意見を真摯に聞くことが重要だと思っている。財政的に厳しいということ、市民要望を断る理由にしていることも無きにも非ずと感じているので、市民の声をしっかり聞ける職員になるよう指導している。「行政改革」という言葉は硬いと思っている。今回意見をいただいたので「市長への手紙」も含めて新しい呼び方も考えていきたい。「市長への手紙」の内容については、提案のほかにも個人的な内容のものや読めないものもあるが、ほとんどの手紙に返事を出している。甲州市ばかりでなく、合併自治体は非常に厳しい財政状況である。新しい事業を進めるためには、我慢しなければならないこともあることを理解していただいている。市民も主張すべきは主張し、譲るものは譲るという体質に変化してきていると思う。鎌倉ダイエットのようなイメージづくりが必要という具体的な意見をいただいたが、そのような具体的な提案にも期待している。合併して3年経ったがイベントもそうであるが、歴史があり住民の思いが深いものの統合は難しい。残すべきは残していきたい。職員の一体化は進んでいる。塩山の職員は塩山庁舎に、勝沼の職員は勝沼庁舎に、大和の職員は大和庁舎に勤務するというわけにはいかない。人事異動も行っており、これまでのように面識のある対応は難しいが、サービスの質は落ちないように指示している。市民の皆さんにも知恵をいただくこともあっていいと思う。若い職員は意欲が出てきており、そういう職員の意見は積極的に取り入れていきたいと思っている。まだまだ物足りなさもあると思うが、ご意見やお教をいただきたい。抱える問題も多いが、実質公債比率が18.4となり、21年度までに18を切る目標はクリアできる状況である。庁舎の整備にも早く手をつけていきたい。庁舎の地下には市内のスーパーが入店することも決まった。本庁舎に民間企業が入るのは全国でも始めてになると思う。財政厳しい折、安価に仕上げなければならないが、市民サービスの向上にむけて必要なものは造らねばならないと思っている。こうしたことにも具体的な意見もいただきたい。いただいた答申を真摯に受け止めながらまちづくりに取り組んでいきたい。
- 会長 市長にはここで退席をいただく。その他について何かあるか。
- 事務局 当初行政評価についても説明したいと思っていたが、評価作業が終わっていないので説明できる状況になっていない。年度内に説明できるようであれば委員会を開きたいが、できなければ来年度に説明をしたいと思う。行政改革の公表がこの時期では遅いと思うので、年度内に整理をして今年より早い段階で第1回の会議を開けるように努力したい。ぶどうの丘の資料については再度整理をして説明させていただく。
- 会長 委員の任期は2年である。答申を終わったからといって終了ではない。任期はあと1年あるので、引き続き市政に関心を払っていただきたいと思う。以上で議事を終了する。
- 副会長（閉会の言葉）

決定事項等	・ 答申書の提出
-------	----------